

小沢元代表の説明は変遷していない

○4 億円土地代金についての小沢元代表の説明が変遷との指摘について説明は変化していない。質問の変化に応じてより詳細に丁寧に説明しているだけである。

2007年2月の記者会見（読売1月24日）

献金してくれた皆さまのお金を資産として有効に活用することが、皆さまの意思を大事にする方法

政治資金が土地購入の原資であることは事実であり、融資を受けたり、つなぎ資金を貸し付けたことを詳細に説明する必要もなかったし、質問されてもいない

2009年10月の陸山会の回答（読売1月24日）

4億円の定期預金を担保に同額の融資を受けた

2007年2月に説明した事実についてより詳細に述べたもの

2010年1月23日の記者会見

つなぎ資金として陸山会に貸し付けた個人資金について詳細に説明

当初は説明する必要もなく、説明も求められなかったが、4億円に不正なお金があるとの嫌疑を晴らすため、つなぎ資金として貸し付けた個人資金について詳細に説明したもの。

○不動産を購入する場合に融資が実行されるまでの間、個人の資金をつなぎ資金として使うことはごく一般に行われている。

○同額の現金があったのになぜ融資を受けたのかという質問があるが、手持ち資金を枯渇させないように融資を受けるということは個人であれ、企業であれ一般的に行われていることであり、その質問自体が意味のないことである。

○承認書のデータ作成日が記者会見前日だという指摘があるが、この捜査を担当した一人が前田元検事である。前田元検事がそのデータを改ざんしなかったという保証はどこにもない。

○小沢元代表は幹事長として、毎週の定例記者会見で陸山会事件について丁寧に質問に答えてきた。「説明責任」を果たせという人は、結局、どのような説明を何度繰り返そうと決して納得しないであろう。彼らという「説明責任」とは「辞任せよ」という要求である。